

## 2021 年 投稿規定

本ネットワークでは、『タイ日研究ネットワーク Thailand 研究論集』を年 1 回発行しています。

1. 関連領域：関連領域は以下の通りです。

- ① タイ・日本及びアジア諸国に関する地域研究領域
- ② 観光学・観光コミュニケーション学に関する研究領域
- ③ 言語学・言語教育学・日本語学・日本語教育学に関する研究領域
- ④ その他、人文学、社会学系

2. 投稿原稿カテゴリー

投稿原稿は、「研究論文」、「実践報告・調査報告」、「研究ノート」の 3 つのカテゴリーに分かれています。

各カテゴリーの定義は以下の通りです。

- (1) 研究論文：研究課題が明確に設定されており、先行研究を踏まえたうえで、研究成果が明確に述べられているもの。
- (2) 実践報告・調査報告：実践及び調査の内容が具体的に述べられており、実践及び調査内容を共有し、意見交換や現場への貢献を目的とするもの。
- (3) 研究ノート：研究課題の提起、将来の研究の基礎として、または中間報告として課題が明確に述べられているもの。

3. 投稿の資格：大学生・大学院生・研究者・教員・その他一般の方からも投稿いただけます。（複数人数可）

4. 使用言語：日本語、タイ語、英語のいずれかとします。

5. 投稿原稿の構成：投稿原稿は、次の項目から構成されるものとします。

- (1) 投稿カテゴリー（「研究論文」、「実践報告・調査報告」、「研究ノート」のいずれか）
- (2) 論文タイトル（本文の主要言語および英語）
- (3) 名前および所属先（主要言語及び英語）
- (4) **要旨（英文：500ワード程度）**
- (5) キーワード（本文の主要言語で、5語以内）
- (6) 本文
- (7) 注(脚注)
- (8) 参考文献・資料一覧

## 6. 原稿の書式・分量

- A4判横書き、行間は1.15で作成してください。
- フォントのサイズは明朝10.5ポイント、英語の場合はArial10.5ポイント、タイ語の場合はThai Sarabun New14ポイントで作成してください。
- 句読点は、日本語の場合は「、」「。」で統一してください（表題も含みます）。
- 論集は白黒印刷です。図・表・グラフ・写真なども白黒印刷ですので、ご自身で調整をお願いします。
- 図・表のタイトル表記は自由です。
- 分量は、いずれのカテゴリーも20ページ以内で作成してください。

### ●参考文献および脚注の書き方は以下の基準に従ってください。

1. 論文原稿の最後に章番号をつけずに参考文献という見出しをつける。資料を載せる場合は、参考文献の後に資料という見出しをつける。
2. 参考文献は、日本語による文献と外国語（英語、タイ語など）による文献をそれぞれまとめて、日本語文献、外国語文献の順に記載する。
3. 日本語文献は五十音順に配列し、外国語文献はアルファベット順に配列する。

[各文献で記載すべき情報は次の通りです。]

#### 1. 単行本の場合：著者、発行年、書名、出版社名

例：海保博之・野村幸正(1983)『漢字情報処理の心理学』教育出版

#### 2. 学術論文の場合：著者、発行年、題名、雑誌名、巻または号、ページ ※外国語文献では、雑誌名はイタリック体にする。

例：渡部倫子(2015)「非漢字圏学習者のための漢字語彙学習ストラテジー尺度の開発」『漢字・日本語教育研究』4号、30-64。

#### 3. 教科書の場合：著者、出版年、教科書名、出版社名

例：佐々木仁子・松本紀子(著)(2015)『「日本語能力試験」対策 日本語総まとめ N2 漢字』アスク出版

#### 4. インターネット情報の場合：当該情報が記載されているHPなどのアドレス ※資料にアクセスした日付を括弧付きで記載する。

例：『国際交流基金』タイ(2016年度)日本語教育 国・地域別情報

<<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2016/thailand.html>> (2018年1月5日)

## 7. 投稿の手順

オンライン申し込みおよび査読原稿の送付

応募締め切り：2021年1月31日(日)

- こちらの URL から申し込みをお願いします。

[日本語] <https://forms.gle/b7kPFxH4MDXaUK8MA>

[タイ語] <https://forms.gle/JD5UmeBi4Mu2FdJX9>

- お申込みの際に、「1. 基本情報」および「2. 査読用原稿の情報」をご記入いただきます。

- 「2. 査読用原稿の情報」としてご記入いただく項目は以下のとおりです。

論文題目・研究目的・研究の意義・研究の概要・結果および考察等・参考文献

分量は、すべての項目を合わせて A4 判 3 ページ程度にまとめてください。

- 8. 問い合わせ先：ご不明な点・ご質問等は以下にお問い合わせください。

タイ日研究ネットワーク Thailand

E-mail: [network4tj@gmail.com](mailto:network4tj@gmail.com)

サイアム大学 大石、高田

タイトル（和文）

タイトル（英文）

大石 忍（サイアム大学）

Shinobu Oishi, Siam University

Abstract

英文

500 ワード程度

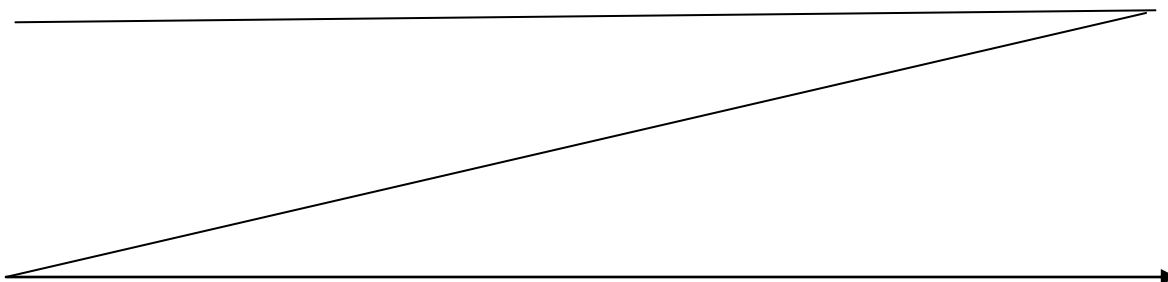
キーワード：〇〇、〇〇、〇〇、〇〇、〇〇

## 1. 章の見出し

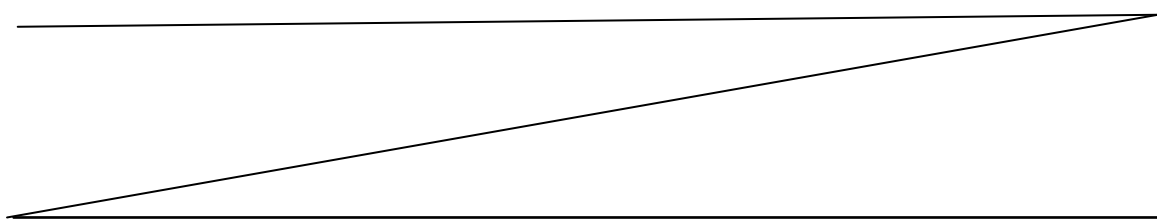
## 例：投稿文の構成

### 2. 章の見出し

#### 2.1 節の見出し



#### 2.2 節の見出し



### 参考文献（記載例）

海保博之・野村幸正(1983)『漢字情報処理の心理学』教育出版

『国際交流基金』 タイ（2016年度）日本語教育 国・地域別情報

<<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2016/thailand.html>>（2018年1月5日）

佐々木仁子・松本紀子(著)（2015）『「日本語能力試験」対策 日本語総まとめ N2 漢字』アスク出版

渡部倫子(2015)「非漢字圏学習者のための漢字語彙学習ストラテジー尺度の開発」『漢字・日本語教育研究』4号、30-64.

### 参考資料